

G 8 環境大臣会合 NGO 主催会議

神戸市出張まとめ

日時 平成19年5月22日(木)ー26日(月)

CARE International Japan

黒川千万喜

本年7月に開催されるG8サミットに先立って神戸市において環境大臣会合が開催された。今回のG8は「環境サミット」とも呼ばれ、中心的テーマとなることは確実で、この大臣会合もG8サミットに先行する閣僚会合の中でも最重要と位置づけられている。それだけにNGOをはじめとする市民団体や研究者、メディアの注目も高く、NGOは恒例のごとくNGO会合をいくつか開いている。今回はその中で3つの会合に出席した。開催日が重なっていたためそれぞれの主要な会合を選んで出席した。

①「ひょうごから洞爺湖へ 持続可能な未来を目指して！

ー地球市民社会からのメッセージー

From Hyougo to Toyako for a Sustainable Future

ーA Message from Global Civil Society=

今回の一連の会議の中では規模も一番大きく（独立行政法人）環境再生保全機構地球環境基金の助成により開催。

主催は実行委員会だが実質は「G8 NGO フォーラム(代表大林ミカ氏)」が主力。会場は神戸国際会議場301会議室。約300名程度の出席者。

5月23日には小島環境省審議官、井戸兵庫県知事の挨拶。

鮎川ゆりか氏「環境大臣会合に何を望むか」、ユルゲンマイヤー氏(環境と開発に関するドイツ NGO 代表) に続いて、3つのテーマ①気候変動②生物多様性③3R イニシアティブについて討議。詳細は省くが③3R イニシアティブが日本からの中古品などの輸出による途上国の環境汚染拡大に焦点を当てていることは注目すべき。環境汚染やそれに伴う紛争の原因が先進国のシステムに内在している典型的な事例。

5月24日は分科会。

(詳細は会議プログラム)

②市民が提案する「もうひとつの環境サミット」

みんなの地球、みんなで決めよう！～「G8」だけで決めないで～

5月24(土)ー25日(日)、兵庫県学校厚生会館、兵庫県私学会館

主催はこちらも実行委員会だが、主体は地元兵庫県、神戸市などの市民団体。

24日午後のテーマ別分科会②「農業、林業、漁業、食」に出席。

兵庫県の有機農業実践者や琵琶湖の漁業者からの報告が主体。田舎暮らしを求める若い世代の動きも報告された。次の③の会合と同様、市場経済とグローバリゼイション

ンに対する現場からの厳しい批判である。

③環境と農業を考える国際シンポジウム

—地球環境問題における有機農業の役割—

5月25日(日)13:30-18:00、神戸学院大学ポートアイランド校

主催 農を変えたい!全国運動、共催：有機農業学会全国有機農業推進協議会他

国士舘大学の古沢広祐教授の司会。フランスとスイスからも有機農業実践者参加。

埼玉の金子氏は40件の顧客との契約で有機農業を40年にわたり実践。有機農業産品に証明が煩雑且つコストがかかる現状について、「自分の場合はお客とそして村の皆が見ている。それが証明であり何の不自由もない」と。

ここでも、最近話題になっている低い日本の食料自給率（フードマイレージ）や輸入食料の安全性への疑問が下敷きになって、地産地消、消費者と生産者のコミュニケーションが強く主張されていた。